

令和3年度大学ポートレートステークホルダー・ボード 主な意見
(令和4年1月7日開催)

1. 高校における大学ポートレートの活用について

○高校における生徒による活用は、探求授業において、①教師による大学ポートレートの説明、②大学ポートレートで大学を検索、独自に開発したワークシートに基づき、③大学を比較、ワークシートへ記入、④グループで発表、⑤振り返り、という流れで行っている。

○大学の比較・検討が圧倒的にしやすい。大学のHPでは大学の良い点しか記載されていないことが多いが、大学ポートレートでは同じレイアウトで様々なことが記載されているため、非常に良い。

○生徒が個人で大学のHPで調べると学部や入試情報ばかり気になってしまい、その大学の特徴等を知らずに大学を選択してしまうこともあるが、大学ポートレートでは学生支援の内容や大学の特徴が分かりやすく記載されている。

○生徒にとって学生支援や大学の特徴は入学後の大学をイメージさせるうえで重要で、大学同士で比較できることに大きな意味があり、大学選択の新たな視点を提供できるのがポイントである。

○進路指導においては第三者認証評価機関から評価を受けているかを確認しており、大学ポートレートで受審状況がわかるのはとても良い。

○生徒が各々でタブレット等を用いて情報を活用することから、GIGAスクール構想との親和性が高い。

2. 大学ポートレートのIR活動について

○大学ポートレートを運営するうえでは、事業理念を確立し、各ステークホルダーのニーズを確実に把握していく必要がある。どこからどのような人がアクセスしているのかを見るのが重要。ニーズがあるサービスは生き残るし、そうでないサービスは消滅する。

○大学ポートレートは比較するためのものではない、とのことだが、利用者側には当然比較に用いたいというニーズがある。

○大学ポートレートは、日本の大学全体のIRの機能の一部を果たしている。その覚悟をもって運営することが大切である。個別大学のIRには監督官庁向け、外部向け、内部向けの三つがあるが、この三つを混在しているIRがしばしば見受けられ、大学の現場からは「IRで何をやったらよいか分からない」という声もある。IRは、誰に向けて何のために発信す

るものなのか、または自己改善のためのものなのかを注意し実施する必要がある。IRのレポートにも三種類あるが、大学ポートレートはファクトブックに近いと考えるが、網羅性や機関ごとの比較、経年比較は生命線となる情報であり、掲載していないということはありません。

○大学でIRをするにあたり、私立大学の情報が網羅的に収録されていないという問題があり、今出ている情報だけでは使えない部分が多いと思う。大学ポートレートが大学側で使えるデータになるためには、過去の有識者が提案されているようにCollege ScorecardやIPEDSなどにあるデータが必要だと思う。

3. 大学ポートレートの改善等に向けた意見

〈有識者からの意見〉

○小難しい言葉が多いため、読み手を意識した言葉を選んでもらえるとよい。また、キャンパスの移転など最新の情報に更新できていない箇所や情報の空欄に対応してくれるとよい。

○国内版と国際発信版でのレイアウトが異なっているため、進路指導を行う際に使いにくいことがある。また、ブラウザによってはレイアウトが崩れることがある。

○国公立版も私学版もどちらのレイアウトもよくできているが、統一できると良い。

○教師、保護者、研究会へ大学ポートレートを紹介してもあまり響かない原因には、大学ポートレートをどのように利用してよいか、分からないというところがある。大学のホームページでの検索と、大学ポートレートでの検索とで何が異なるのが実感できないため利用されていないと思う。そのため実践事例や使い方の紹介が必要かと思う。全国高等学校進路指導協議会や各都道府県進路指導団体の大会での実践事例発表は広報活動として効果的かと思う。

○今の生徒は情報検索にInstagram（インスタグラム）を利用しているので、広報活動に活用してみてもどうか。

○システムを評価する場合、アクセス数を取るだけでなく、アクセスログから、どこからどのような人がどのページにアクセスしているのか等の詳細を分析することが重要。

○比較が序列につながるというのは大学側の意見であり、利用者側は大学の情報が分からないから比較したいのであって、きちんと要望に応えられていないのではないかと思う。

○EBPM 等が進む時代において、各大学の IR は日々研究や研鑽を行っており、大学ポートレートの運営においても、データの重要性に鑑み、運営態勢を整備する必要があるのではないか。

○大学ポートレート事業を進める上では、時々の声に耳を傾けるだけでなく、ロードマップの策定が必要であり、計画に沿って事業展開する必要がある。

〈大学ポートレートステークホルダー・ボード委員からの意見〉

○紹介にあった大学ポートレートを使用する際に用いるワークシートを他の学校でも利用してもらえるようにすると、高校での大学ポートレートの利用度が上がってくるのではないかと思う。その際、たとえば、高校における活用例として、今回のプレゼンを大学ポートレートの事務局から高校などへ提供するなど、周知することが考えられる。

○中央教育審議会大学分科会質保証システム部会でも、大学ポートレートの国公立版と私学版でプラットフォームが異なるため検索が不自由だという指摘があった。また、教育研究の質にかかわる重要な情報が分かりやすく示されているかという指摘がされていたが、具体的には学修成果に関するものではないかと思う。

○第三者認証評価機関の評価について、リンク先が大学公表ページではなく認証評価機関のホームページになっている大学があり、適合、不適合の結果がすぐにはわからないのは課題である。

○高校生向けと大学 IR 向けで求められている情報がどこまで重なるのか、その情報の見せ方についても考えていく必要がある。そのためどの目的を優先して誰に向けて見せていくのかの本質的な議論が必要。高校生向けの情報と大学 IR 向けの情報を両方扱うにしても入口を変える等の工夫が必要なのではないか。どれだけコストをかけて、情報の公表・共有するのか、大学の合意形成が必要だと思うので、議論が必要なのではないか。

○高校の進路指導が主体性評価に変わったため、情報の活用の仕方が変わってきている。今まで大学選択のための情報収集だったのが、主体的に大学を選択しなければいけないという形になってきており、生徒は自分とのマッチングを考えていかなければいけなくなっている。そうすると大学の情報の発信としては個性を強く主張してもらわないと、この大学に入りたいと言えなくなる。これからは特色をとらえるという選び方に変わってくるので、少し軸が変わってくる。

○高校側として大事なことは信頼できるデータであるかということであり、大学ポートレートにはその期待がある。公開されるべきものは全て公開されていて、大学ポートレートを見れば大学のことを全部調べられるようなデータベースを構築出来たらよい

と思う。

○何のために、誰のためにやっているのか、限られた予算の中でどのようにすると効果的なのかという議論がとても大切だと思う。

以上